



卒業後四年目、初期研修を終え現在の勤務地東庄町に来てから二年間が経過しようとしています。東庄町は天気予報で必ず出てくる銚子市の隣町です。

特産品の一つにイチゴがあり春になるとイチゴ狩りのツアーの方も大勢みられます。栃木の皆さんを相手にイチゴを語るのにはちよつと気後れしますが、両方食べたことがある身としては、よい勝負ができています。はないかと思っています。

### 「移動力」が低下

住民の方は気さくで元気な方が多く、外来で「今日はバイクで来たばっかりで測ったから、血圧高めに出ちゃったよ」とさらつと言つ九十代の方にお会いしたときはあまりの元気に絶

# 外来通院の環境整備課題に

句してしまいました。

しかし、東庄町も全国のトレンドに漏れず高齢化が進んで

ています。高齢化率約24%と他の卒業生の赴任地に比べれば「若い」部類に入ると思われま

すが、それでも四人に一人は高齢者という状況で、いろいろな影響が出てきています。



町が運行している外出支援バス「お出かけ号」

なかむら よしたか  
**中村 好孝** 26期生2003年卒

## 千葉県国保東庄病院

【私の勤務地】東庄町は千葉県東部利根川沿いにあり銚子市の西隣に位置する。人口約1万6000人。東庄病院は一般32床、療養48床の計80床。常勤医師4人。高台にあり2階からの利根川の眺めは素晴らしいが、自力で眺めのいい所まで移動できる方はあまり入院していない。

### 外出支援にバス

今のところは、主に介護にかかわっている五十代、六十代の方はご両親と同居されている方も多く病院への「足」はある程度確保できています。しかし、今後私と同世代が介護する立場に立つことを想像すると、核家族化が進む上、兄弟の数も少ないため、先行きは暗いと言わざ

特に移動力の低下は致命的です。町内にもバスや駅はありませんが、都会のように日常の足とはなっていない。遠出するときの手段としては使われていますが、そもそも駅やバス停まで車で移動が必要だったりします。

を得ないと思います。東庄町では外出支援の一環として「お出かけ号」というバスを町内で走らせており、外来にいらつしやる患者さんも多数利用しています。本数は少なく、バスがなくなるから今日は検査はいいや」と言われ困ることも時にあります。お年寄りの外来通院の強い味方になってい

このように何をしに行くにしても車やオートバイでの移動が必須になっている田舎の現状では、「車に乗れなくなる」「一人ではほとんどどこにも行けなくなる」という状況です。

近年、千葉県東部はいろいろな病院での医師数の減少や診療科の削減など医療資源の減少が進んできています。そのような中、訪問診療には人的、時間的な限界がある以上、いかにぎりぎりまで外来通院できる環境を整えていくかも、今後の地域医療に重要な課題となるのではないかと考えています。

(この企画は今回で全国を一巡しました。二巡目は、四月二十一日付からスタートします)